



静岡市立大里西小学校 出前授業レポート



静岡県埋蔵文化財センター

令和5年6月13日(火)



「実際に体験できたことで、
子どもたちが楽しく昔の暮らしを理解できました。」

静岡市立大里西小学校の6年生132人が、歴史の授業の導入で体験的な学びを取り入れるために、発掘調査と周辺遺跡の話、土器の分類、石器の試し切り、火起こしの4つの体験を行いました。

発掘調査と 周辺遺跡の話



発掘調査の話は、普段見たり聞いたりすることがないので、興味深く聞いていました。また、大里西小学校の周辺にも遺跡があることを知って驚いていました。

「大里西小の近くに遺跡があったことが分かって良かった。」



土器の分類体験



縄文時代・弥生時代・古墳時代の3種類の土器片を、完形土器と見比べながら分類しました。土器片の色や厚さ、模様、質感などに注目して分けました。

「時代が変わることにより技術も進歩したから、土器の形や色、大きさが変わってくる。」



石器の試し切り体験



鉄製の道具が日本に渡来するまでは、石がその役割を果たしていたことを学び、実際に石で物が切れるのか試してみました。黒曜石の切れ味は想像以上だったので、子どもたちは驚いていました。

「今と昔で道具が違うことがわかった。昔の人は苦労してたんだな。」



火起こし体験



もみぎり法、弓ぎり法、舞ぎり法などの火起こしの方法を学び、舞ぎり法で火起こしをしました。弾み車を上手に回せなくて苦労しましたが、慣れてくると調子よく回し火種を作ることが出来ました。火種をそつと火口の上に載せ、長く息を吹きかけると火が起こせました。

「火をつけるのがすごく大変ということがわかった。」

「コツをつかむと上手に出来るけど、コツをつかむまでが難しかった。」



先生方の感想

「社会科の縄文時代の学びとつながっていて、子どもたちにとって良い勉強になりました。実際に体験できたことで、子どもたちが楽しく昔の暮らしを理解できました。子どもたちに分かりやすく、丁寧に話をしてくださいました。子どもたちは、みな楽しかったと満足した表情が見られました。ありがとうございます。」

